

6. 点検・調査

職員・協定業者・専門家の連携が不可欠

’ 78.6 宮城県沖地震 【出張所】

【事例】 維持業者が自主的に点検や、段差の補修などに当たってくれたので迅速な対応が出来た。普段から、このような業者との信頼関係を築いておくことも重要である。
(河川国道事務所長)

【反省・課題】 職員による橋梁等の点検調査の際に被害の見落としがあった。点検に要する時間が限られていたこともあり、詳細に点検しなければ分からない損傷・変状を見逃してしまった。
(国道維持出張所長)

【教訓・アドバイス】 橋梁の点検調査には、専門家が参加することが望ましく、コンサルタント等との事前協定が有効である。
(国道維持出張所長)

’ 03.9 十勝沖地震 【事務所】

【反省・課題】 地震発生直後に、協定業者が自主的に現場に入るといことがなかったため、こちらから作業を依頼した。また、緊急復旧工事申請用の写真を撮影する際、防災エキスパートを中心に協定業者、コンサルタントを活用したが、撮影方法の説明不足から再度撮り直しを行う等の混乱が生じた。そのため申請が遅延してしまった。
(河川事務所)

【教訓・アドバイス】 大規模な災害に的確に対応するためには、職員、防災エキスパート、協定業者、コンサルタント等が一体となった役割分担の見直しが早急に必要だと感じた。具体的には、協定業者の受け持ち区間の細分化および業者数の増強、自動的に現場に入ってもらい緊急災害に該当する箇所を選定、写真撮影をする等、役割分担を明確にする必要がある。
(河川事務所)

通行止め判断等は専門家チーム（道路防災ドクター制度）などの支援がなければ難しい場合も多いため、事前協定により専門家チームを組織しておくことが望ましい。

また、協定会社などが自主的に点検等に当たってくれるよう、普段から十分な協力関係を築いておくことが重要である。

确实・容易に点検ができる条件整備を

' 78.6 宮城県沖地震 【出張所】

【教訓・アドバイス】 橋梁等の重要構造物近辺は、地震時に容易に点検できるよう、普段から除草などを行っておくべきである。
(国道維持出張所長)

【反省・課題】 点検者が震後の施設点検のポイントを知らず、「橋脚に亀裂が若干入ってます」等の報告でしかなかった。また、写真の取り方に不慣れなため、写真から被災状況を把握するのに苦労した。点検した結果の整理の方法（図化の方法、用語等）が、点検者によってバラバラで被害の実態を正確に把握し難かった。
(国道維持出張所長)

【教訓・アドバイス】 橋梁の点検マニュアル、橋梁台帳等を事前に整備しておくことが重要である。
(国道維持出張所長)

' 95.1 兵庫県南部地震 【事務所】

【事例】 構造物の点検～応急復旧に当たっては、各構造物の図面が必要となる。比較的新しい構造物についてはマイクロフィルム等に収めて技術事務所に保管されていたため用意できたが、相当古い構造物については建設当時のコンサルタントに問い合わせなければならない場合もあった。
(国道事務所 道路管理第二課長)

【教訓・アドバイス】 古い構造物も含めて、普段から各構造物の建設時の図面などを取り出せるようにしておく必要がある。
(国道事務所 道路管理第二課長)

重要な構造物は、点検しやすい状況を日頃から作っておくべきである。誰が点検を行っても同じレベルで実施できるようにするためには、点検マニュアルなどを事前に準備しておくことが望ましい。

また、重要な構造物の設計時の図面や計算書などはすぐに取り出せるよう準備しておく必要がある。



橋梁点検車の稼働
(03 宮城県北部地震)